

静岡県保健師等における 災害時健康支援活動

～令和3年熱海市土石流災害の対応を中心に～



静岡県健康福祉部 健康増進課

災害時の組織・活動体制

災害対策本部

保健医療調整部

【収集する情報】

①保健医療ニーズ ②衛生環境情報 ③要援護者避難情報 等

被害状況、交通機関の状況、利用可能な道路状況、管内市町村役場の被災状況、病院の被災・稼働・患者受入状況、医薬品・医療機器不足状況、避難所の状況、救護所の状況、その他、地域特性に応じた状況

施設

仮設住宅

避難所

在宅避難者

医療機関

法令に基づく権限行使・意思決定は被災県・市町の行政職員にしか出来ない！

保健師の活動体制

市町の保健師が行う

リーダー
(統括)

プレイング
マネージャー

プレイヤー

応援
保健師

災害時の健康支援活動

《 目的 》

- ・住民の生命や安全な暮らしの確保を図り、避難生活等に伴う、**二次的な健康被害を予防**しながら、被災地域全体の早期復興へ向けた支援を行う。

《 対象 》

- ・**住民全体**。フェーズごとに変化する対象者の状況に優先順位をつけて対応

防ぎえた死と二次健康被害の最小化

《防ぎえた死》非災害時で、その地域や病院が通常的环境・診療体制であれば救命できたであろう死

《災害関連死》災害で直接外傷を負ったわけではないが、災害によって受けた精神的ショックや、災害後の厳しい避難環境など、間接的な原因によってもたらされた死。

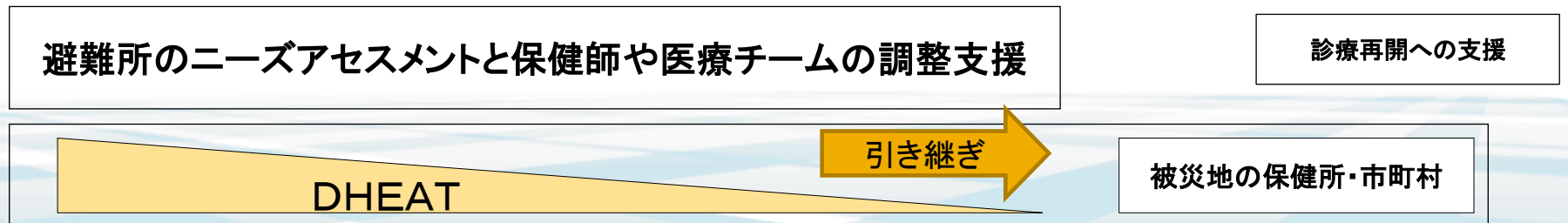
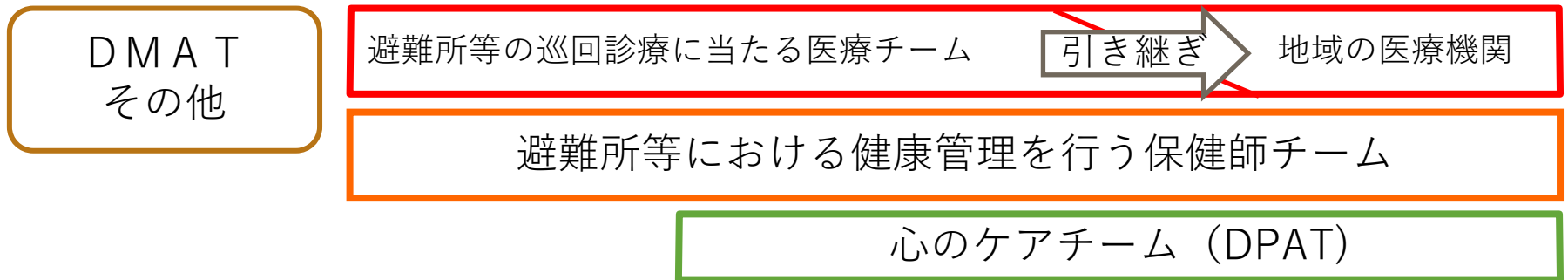
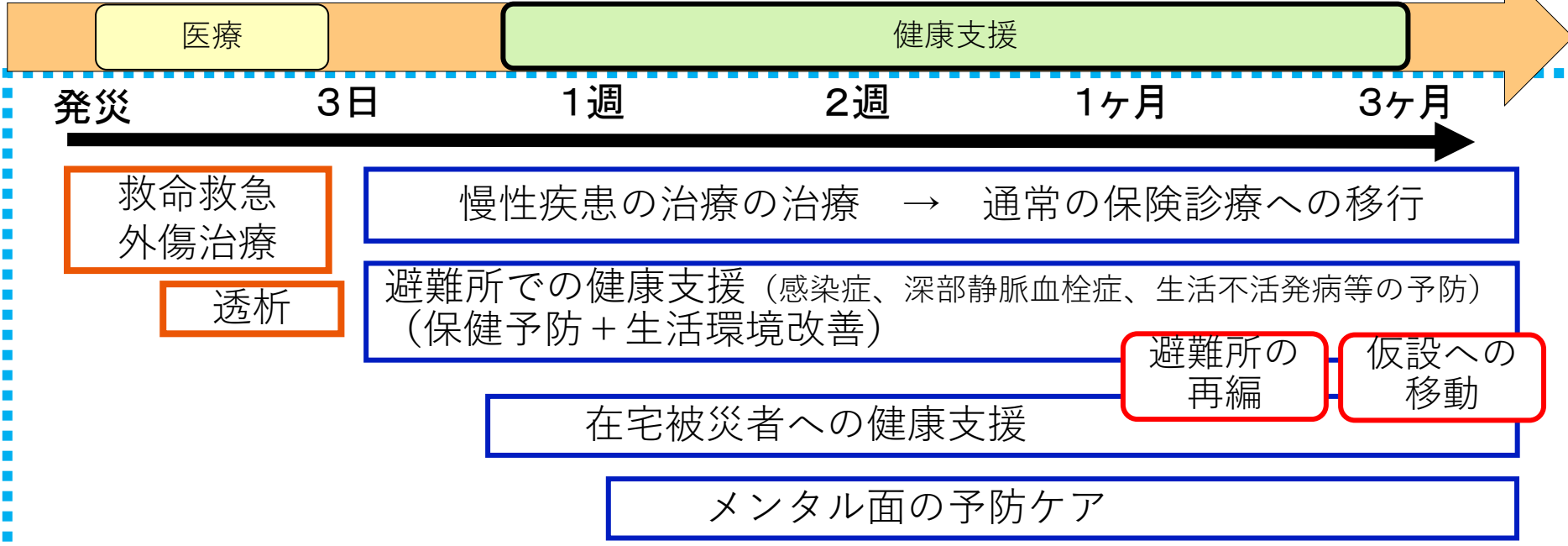
対策

1. 医療対策
2. 保健予防対策
3. 生活環境衛生対策

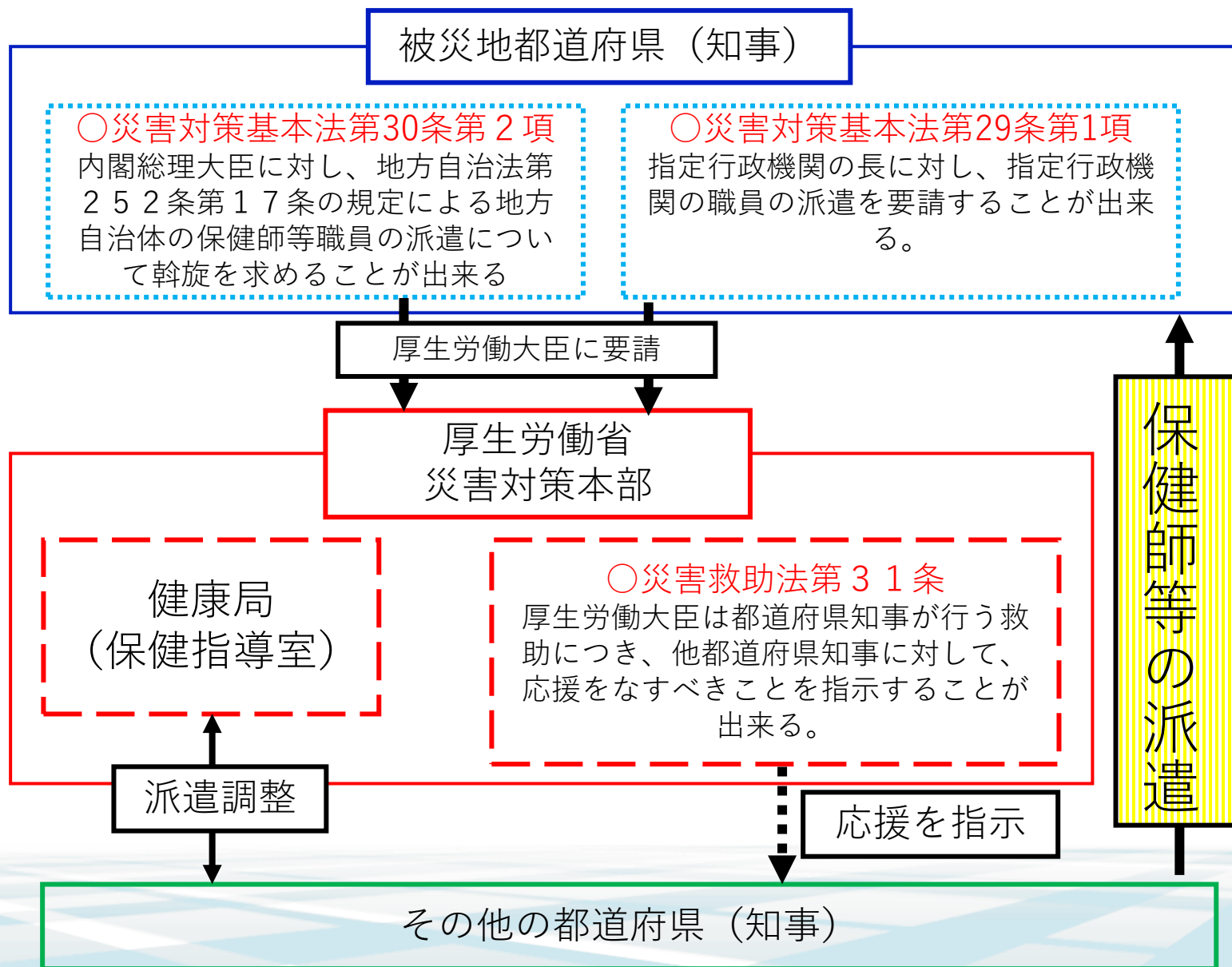
3つの衛生

- 1 生命を衛る
- 2 生活（暮らしを）衛る
- 3 生きる権利を衛る

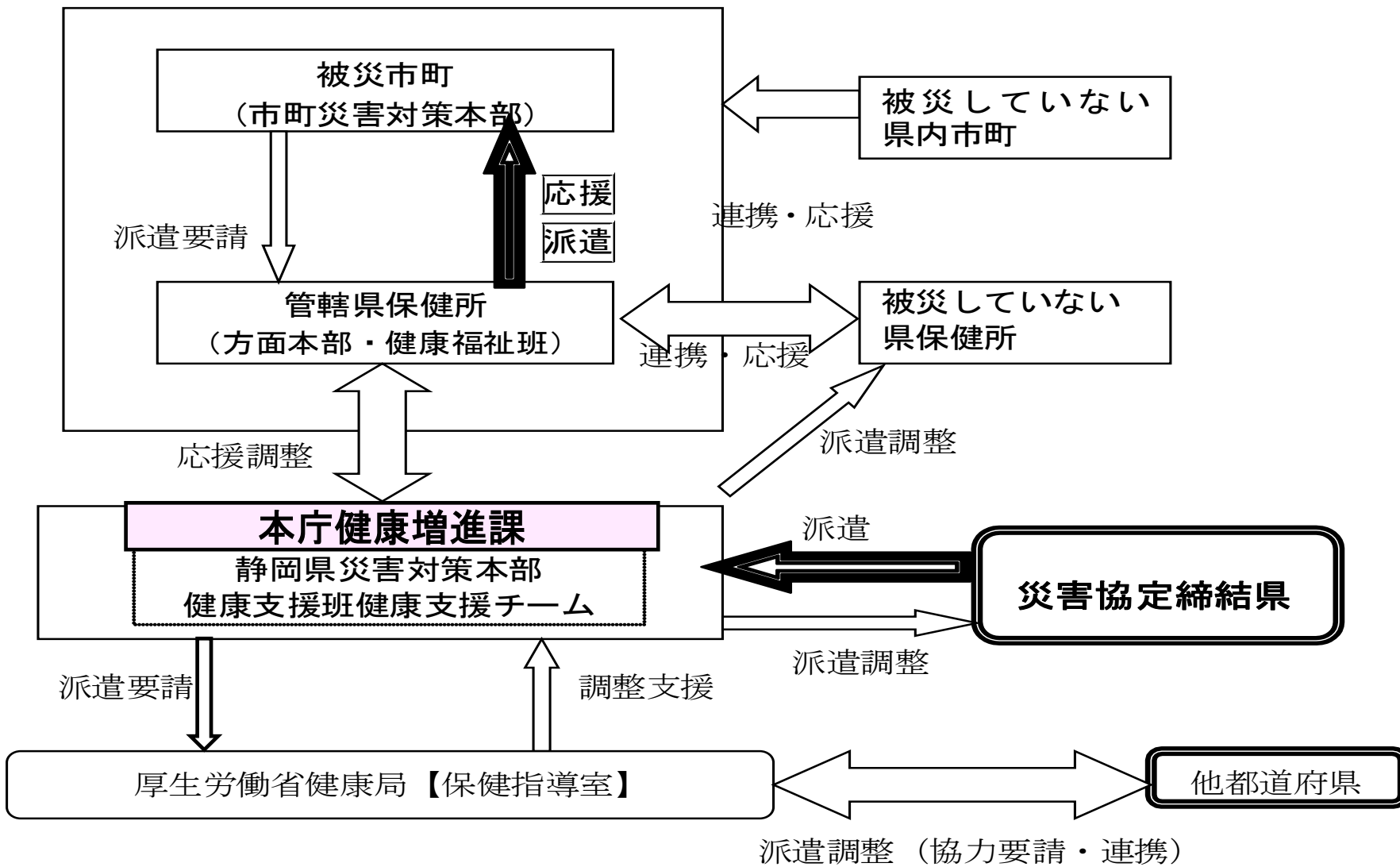
災害時保健医療ニーズと活動の経時変化



被災地に対する保健師等の派遣のしくみ



保健師等の派遣要請・受け入れ



災害時に起こりやすい健康課題

- ・ 感染症
- ・ 深部静脈血栓症
- ・ ストレス関連障害
- ・ 低体温症
- ・ 熱中症
- ・ ストレス関連障害
- ・ 便秘
- ・ アルコール依存症
- ・ 生活不活発病
- ・ 慢性疾患の増悪

.....



避難所における健康支援活動

- ・ 避難者の健康管理と処遇調整
- ・ 衛生管理及び環境整備
- ・ 生活用品の確保のための働きかけ
- ・ 避難者同士のプライバシーの確保
- ・ 避難者の不安への対応
- ・ ところのケア対策の検討
- ・ 保健・医療・福祉・介護関係者への情報提供と連携
- ・ 健康教育の実施

自宅滞在者への保健活動

- 保健・医療・福祉・介護関係者への情報提供と連携
- 健康相談の実施
- 心のケア対策の検討
- 健康状況把握のための調査等の実施と検討
- 災害時要援護者の医療の継続
- 生活再建への支援

健康支援活動

・感染症予防対策



・生活不活発病の予防 ・閉じこもり防止



DWAT
主催の
体操

県保健師、
DWATと避難所（ホテル個室）訪
問

- ・ トイレ等の清掃
- ・ 清掃方法の指導
- ・ 消毒薬の配布
- ・ 手指消毒薬設置



- ・ 避難者の健康管理
- ・ 心のケア対策
- ・ 情報提供



健康支援活動

- ・ 避難者の健康状況確認
- ・ 要援護者の訪問



日ごろ地域の
コミュニティ、
つながりが強
い方は、元氣
で困りごとが
少ない。

- ・ エコノミー症候群予防



子供が大きい声を出して、
他人に迷惑をかけられない

余震を恐れて自
宅に帰れない
→車中泊する

家庭訪問の様子(熊本地震の現場から・・・)

保健師の「みる・つなぐ・動かす」で支援したAさん

83歳代女性、地震を機にいざり這いができなくなり寝たきりへ。地震後21日目の家庭訪問で褥瘡が悪化し、広がっていることがわかる。地震後23日目、ケアマネと同行訪問。(経済的に困難な家族)



家族に同意をとり、夕方にはエアマット(福祉用具レンタル)導入し、今後は入浴サービスの際にケアマネに経過観察を依頼した。

全体ミーティングで提案したBさんのこと

71歳代女性、高血圧で治療中、薬は2か月分持っているので今は心配ない。従来、近隣に頼ることなく電車やバスで医療機関を受診していたが、交通網の寸断、復旧の見込み不明なことから次回受診への不安を訴えた。



被災後の時間が経過したのち、問題が発生しそうなケース。全体カンファレンスで問題を共有し、今後の検討課題とした。

災害時健康支援活動の実際



熱海市伊豆山土石流災害に おける健康支援活動

〈熱海市の概況〉

人口35,602人(男性16,130人、女性19,472人)、21,378世帯
高齢化率48.3%(後期27.8%)(R3.4.1) 出生数114人(平成30年)

保健師等派遣

R3. 7. 3発生 7月5日~9月17日

避難所での健康支援活動

避難所 ニューフジヤホテル 約500名が避難



避難所における指揮命令系統

組織体制と業務内容（ICSとCSCAHHH）

保健医療福祉合同調整本部（本部長）熱海保健所長

県リーダー保健師

現場指揮者を
決めて指揮
系統の確立

DMAT

DPAT

DWAT

リハビリ

保健師
栄養士

看護
協会

社協

本庁健康増進課（統括保健師）に情報提供

庁内関係部署、県保健医療福祉対策本部、
災害対策本部と共有、活動方針を検討

関係団体と連携、対応

活動内容(全体概要)

月	7月		8月	9月
避難所	ニューフジヤ		金城館	
	アカオ		ウオミサキ	
ア 安否確認・避難所名簿作成	←→			
イ 受療状況確認・受診調整	←→			
ウ 保健指導・食事指導・心のケア	←→			
エ 福祉サービス利用調整	←→			
オ 退所後のサービス調整	←→			
カ 自宅等の支援対象者名簿作成	←→			
キ 自宅等訪問	←→			
まん延等防止措置	←→			
緊急事態措置	←→			

- ・保健師と医師、リハスタッフがホテル内の部屋を訪問
- ・健康体操にて慰労に関する講話、体操部門を担当
- ・段ボールベッド導入の指示と導入後の評価
- ・病院へのつなぎ(骨折疑い、糖尿病の血糖管理、PCR検査実施)
- ・感染予防対策への助言指導

理学療法士と部屋を訪問し転倒リスクを回避



トイレ

お部屋入り口の大きな段差
トイレ入り口の小さな段差
床がボコボコ(石の床)
手すりがない



お風呂

またいで浴槽に入ることができない
椅子が小さすぎて、しゃがめない
(立ち上がれない)

転倒のリスク

熱海市伊豆山ささえ逢いセンター(熱海市社協) 10月4日開設

◆被災者情報の共有

・災害ボランティアセンター、避難所、住民組織

◆生活支援相談員4人による見守り・相談支援等

・現状などの調査及び個別支援計画の作成

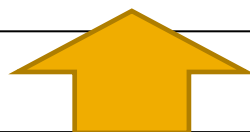
・見守り・巡回訪問

・専門相談機関等へのつなぎ 他

・市保健師等と協働

・熱海市健康福祉センターが
困難事例へのサポートと人
員不足時の支援

・精神保健福祉センターが
心の支援継続 等



静岡県熱海市地域支え合い支援センター(県社協)

◆統括生活支援相談員(1人)による熱海市社協への支援

◆市センターの後方支援

◆被災者支援の広域調整

◆専門職団体・機関との連携(社会福祉士会、弁護士会、精神保健福祉センター等)

◆支援団体調整

被災地における保健師の役割

◆チームで支援

それぞれ専門職が同じ専門職にとけこみ、支援

◆寄り添い支援

被災自治体によっては、支援者にすべてを委ねようとするところもあるが、地域を知り、地域を活かして復興に向かうためには、被災自治体とともに活動することが必要

◆支援者は終了後を見越した支援が必要



支援活動の原則と留意点

- ◆自らの行動が被災者にさらなる苦痛を与えないこと
- ◆自らの行動が特に最も被災した者や最も脆弱な立場にいる者の利益になること
- ◆被災者・被災地の保健医療の自立を支援すること
- ◆直面する課題に対して、「こうするべき」はならない、「どうするか」を考えること
- ◆指揮命令系統を踏まえた組織的な活動であることを意識して行動すること

平時からの準備

- ◆平時からの準備、発災時の初動、被災地の状況と今後起こりえることを**想定した支援**が大事。
- ◆災害時健康支援活動は、**平時にしていけないことはできない。**
- ◆**平時のつながりの先に有事のつながりがある。**
市町、保健所とのつながり、保健師とのつながり、医療、福祉など関係団体とのつながり、関係部署とのつながり、住民とのつながり
◎言える、相談できる関係を築いておく。
- ◆保健師活動量調査等を活用し、管内市町の保健活動についての把握、調整（役割や価値観の共有）、意見交換等しておく。
ex. 地区活動統計において〇町は家庭訪問が少ない。
⇒日ごろからケースの事例検討や家庭訪問等、共に活動する等
- ◆災害時健康支援マニュアルの確認

災害時の栄養・食生活支援、リハビリテーション支援



この締結により、災害時の活動内容、指揮系統、責任の所在などが明文化された。今後災害時支援活動が円滑に進むことが期待される。



御清聴ありがとうございました

